

東京に平和祈念館（仮称）を



今年8月9日、被爆地長崎を訪れた東京都原爆被爆団体協議会（東友会）の人びとの中のもの山本英典さん（左側3人のうちの中央）

いまこそ「東京都平和祈念館（仮称）」建設を

山本英典

被爆50年、戦後50年に当たる1995年を迎える当時、戦争・原爆犠牲者への国家補償を求める声がこれまでになく高まりました。

国は「原爆死没者への個別弔意はしない」と言明し、慰霊・追悼施設による一括弔意ならということ、広島・長崎に「国立原爆死没者追悼平和祈念館」を建てることで世論をかわしました。

東京でも、東京大空襲の被害についての弔意措置と記録保存・公開の要求が高

まり、都知事は「平和祈念館（仮称）建設委員会」を設置し、一般市民による公募委員も参加して、あるべき平和祈念館の構想を練りました。私はその公募に応じ、委員の一人になりました。

委員会は、最終答申案まで作り知事に提出しましたが、一部議員の強圧的な反対と右翼団体の脅迫で、答申は棚上げにされ、今日に至っていることはご存じのとおりです。

私は、平和祈念館には、戦争に至った反省と犠牲者への謝罪と償い、未来の平和への誓いが根底に貫かれていなければならぬと考えています。

いま都内にある公設の戦争展示館では、戦争時代の市民生活の苦難、敗戦の結果にともなうて起きた辛苦については揭示されてはいますが、なぜ戦争が起きたのか、なぜ国の内外に多くの犠牲者がつくり出されたのか、その原因と反省については知ることができません。国内外の犠牲者にたいする謝罪と償いについての意思表示もありません。

広島・長崎原爆についての記述も、形ばかりです。核兵器の恐ろしさ、放射能障害の残酷さについての展示はありませんし、核戦争の危険についての警告は何もありません。

原子力発電所の事故による被害の実態、不安、恐ろしさについての展示もありません。総じて、戦争の残酷さ、悲惨さ、後障害、心の傷の痛みなど、戦争によって起きた人間への犠牲、人間と環境への影響を正しく知ることはできません。

未来への展望を持つことはできません。これでは「平和への誓い」があったとしても、実感を伴わない、きれいごとの表現に終わってしまいます。

戦争関連法が強行制定され、自衛隊員の犠牲にとどまらず、一般市民にも新たな犠牲が強いられる危険が強くなってきたいま、本当の平和を願う立場からの「平和祈念館」設立の意義は極めて高くなってきています。

戦後70年、原爆被害70年に当たり、都民の力でぜひ、平和祈念館（仮称）を実現させたいと思います。

山本英典プロフィール

1933年2月満州・大連生まれ。5歳のとき長崎へ。1945年8月9日長崎で原爆被爆。

1951年上京。大学在学中にヒキ一水爆実験が起き原水爆禁止署名運動に関与。

1981年から東京で被爆者運動に参加。日本被爆者事務局次長、東友会事務局次長、副会長、東京都平和祈念館（仮称）建設委員会など歴任。

発行 「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会
〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1エデュカス東京
東京総合教育センター 気付 FAX03-5927-1487

シンポジウム 「戦後70年、いまこそ都立の「平和祈念館(仮称)」を！」



「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会は、7月18日(土)午後、豊島区立勤労福祉会館で「シンポジウム 戦後70年、いまこそ都立の「平和祈念館(仮称)」を！」を開催しました。

このシンポジウムは、「合唱団 この灯」によるオープニング、司会・平山百子さん(日中友好協会)、会の代表世話人・小森香子さんの開会挨拶、コーディネーター・糀谷陽子さん(元「東京都平和祈念館(仮称)」建設委員・中学校教員)、パネラー・孫崎享さん(東アジア共同体研究所理事・所長)、パネラー・東海林次男(東京都歴史教育者協議会会長)で構成され、閉会挨拶を柴田桂馬さん(原水爆禁止東京協議会代表理事)がおこないました。

参加者は60名でした。

紙面の都合で、パネラーの発言は1回目のみにとどめさせていただきますことをご了解ください。

(東海林さんはパワーポイントを使っての発言でしたのでレジュメを引用させていただきました。また東海林さん作成の「1940年の東京の軍事施設」一覧を掲載させていただきました)

(柴田桂馬 記)

この東京でも戦争で亡くなった沢山の人の名前を語り伝え思いつづけ、平和を守っていきたい
代表世話人挨拶
小森香子さん

ご承知のようにこの東京は大空襲では沢山の人が焼かれました。

この東京は何回も何回も空襲にあい町中が焼け野原になりました。私は15歳、動員学徒でした。

3月10日は真夜中に2時間半にわたって空襲にあい、繰り返し繰り返し焼夷弾が落とされました。私も我が家を焼かれまいと思い防空頭巾の上から水をかぶつ

て火の粉を防ぎました。

2階の窓から見ると、鬼子母神の大ケヤキの並木がまるで竹ぼうきを逆さにされたように梢がぼうぼう燃えているのが見えました。

今も皆さんが鬼子母神に行かれることがありましたら見て下さい。

表参道の最初の入り口のところにある大きな太いケヤキの木の幹には、その時の火傷の跡が木肌にくっきり黒くカサブタのように残されています。

私もあれから70年神経痛を患い、悩まされています。右手はいまだに痛みます。

これはほんとに体に心に焼き付けられた戦争の痕跡だと思っています。



この痕跡を私たちは決して忘れずに代々伝えていかなければなりません。

今も「戦争法」が国会に上程されていて、非常に危険な状態になっている時に、戦争を知らない若い人たちも立ち上がっている。

あの戦争で亡くなった人たちをズーッと思い続けなければならぬと思います。

だから東京にも平和祈念館を作りたいと私たち願ってい



るわけです。

沖縄の平和の礎（いしじ）にも、広島の名簿の中にも、新しくもしあの時に亡くなった人が発見されれば、毎年必ず名前を書き加えているわけです。

私が沖縄に参りましたときには、あの広い広い場所に並べられている礎のなかにまだ名前が刻まれていない礎がみつらなっているのを見ました。

たくさんの礎には、どこの場所で、どこの出身者が亡くなっているという名前がビッシリと刻まれているのです。

戦後70年の今年、あの琉球新報から慰霊の日の写真が私にも送られてきました。

礎の前で膝まづいてお酒を、お花を供えて、名前の上を手でなぞっている女の人や赤ちゃんから70歳の人びとの写真、そうやって戦争をしてはならないと語り継いできているのです。

どうぞ皆さん、この東京でも戦争で亡くなった沢山の人の名前を語り伝え思いつづけ、平和を守っていきたく。二度とこの町を焼かれたくな

いという思いでこの会を成功させて下さい。

（文責・柴田桂馬）

東京や全国子どもたちが来て平和や命の大切さを学んでもらえるような「平和祈念館」を
糀谷陽子さん

コーディネーターの糀谷さんはまず次のことから語り始めました。

「今日も、戦争法案廃案めざして全国各地で『アベ政治を許さない』のポスターを掲げる行動が行なわれています。私は、戦争法案反対のたたかいの中で、若者たちが自分の言葉で自分の思いを話していることに感動しました。例えば『国民一人ひとりが主権者としての権利を行使し、声をあげれば、戦争だって止められる力があるんだぞ、ということを僕は政府に見せつけたい』など」。

そして、次のように、「東京都平和祈念館（仮称）」建設にむけての経過を報告しました。

（1）その原点は、1970年代にさかのぼること。

早乙女勝元さん、松浦総三さんなど「東京空襲を記録する会」が、再び戦争の惨禍をくりかえしてはならない思いをこめて1973年3月10日に「東京大空襲戦災誌」を発行。

1979年2月26日、永六輔、北杜夫、澤村貞子、杉村春子、高木東六、林家正蔵、堀田善衛、吉村 昭、吉行淳之介、松浦総三、一色次郎、早乙女勝元の12氏が都知事候補に「『空襲・戦災記念館』

（仮名）を東京に設置することでの公開要請書」を提出。

（2）1990年代の到達点。

1990年7月20日：「東京都平和の日」条例公布・施行。

1992年6月25日：東京都平和祈念館基本構想懇談会（座長＝永井道雄氏）発足。

1993年6月8日：同懇談会が検討結果を鈴木俊一都知事に報告。そこに示されている基本的性格はつぎの内容。

①東京空襲の犠牲者を悼み、都民の戦争体験を継承すること。②平和を学び、考えること。③21世紀にむけた東京の平和のシンボルとすること。④平和に関する情報のセンターとすること。

1996年5月31日、第1回「東京都平和祈念館（仮称）」建設委員会開催。

糀谷さんは、東京都が「建設委員会」に4人の公募委員を募ったこと、ご自身は当時、東京都教職員組合の執行委員であり、東京や全国子どもたちが来て平和や命の大切さを学んでもらえるような「平

和祈念館」にしたいと考え、公募に応じたこと、建設委員会のなかでは、「平和と命の大切さ、戦争の本質を伝えるものにしてほしい」「分かりやすい展示にしてほしい」と発言してきたことなどを紹介しました。

ところが、その頃から藤岡信勝さん等に代表される右翼の潮流からの攻撃が始まりました。彼らは、東京都が提案した「展示内容が『自虐的』である」「東京の資料館だから東京空襲のことだけ取り上げればよい」などと難癖をつけ、それに改憲派の議員が同調して、結局、1998年3月の都議会本会議で、「平和祈念館の建設にあたっては、展示内容等について、都議会の合意を得たうえで実施すること」という付帯決議が採択され、平和祈念館の建設は事実上「凍結」させられてしまい、今日に至っていると報告しました。（文責・柴田桂馬）

戦争犠牲は政府のウソと詭弁の政治の結果 孫崎 享さん

◆戦争犠牲は政府のウソと詭弁の政治の結果

孫崎さんは、「第2次世界大戦で亡くなった日本人は310万人だといわれています。日本の歴史の中でこんな大きな失敗をしたことはなかった」ときりだしました。

つづけてつぎのようにお話しされました。

「何でこんな戦争をしたんでしょうか。日本が真珠湾攻撃をした1941年、当時のアチソン国防次官補は『わが国を攻撃すれば日本にとって破壊的な結果になることは少し考えればどんな日本人でもわかること』と言っ

ていました。戦後アメリカの陸軍戦略研究所の所長さんは『日本が1941年に下した決断は全く合理性に欠けていた。アメリカは日本の10倍の工業生産力もっていた。もちろん日本はアメリカ本土を攻撃する能力はなかった。そんな国とたたかっ



て日本は勝算があると考えたのだろうか。太平洋方面でわが国とたたかえば負けることは分かっていた事だ。日本がわが国とたたかうことをどう説明したらいいんだらうか』と言っているんですね。

流れを考えてみれば、日中戦争をやって、あれからビルマを経由して武器・弾薬を送る。だからそれをすすめるために陸軍はインドシナにはいった。それに対してアメリカは石油の全面禁輸の制裁をおこなった。だから日本はインドネシアに行って石油を取ろうと思った。石油を取ればアメリカはそこに反撃してくる。だから真珠湾を攻撃を計画した。というわけです」

◆歴史上大きな失敗に終わった戦争の原因

日本の歴史の上で最も大きな失敗をもたらした戦争の動向について日本の国民はどのように考えていたのかについて孫崎さんはつづいて次のように話さ

れました。

「当時のトルーマン大統領は大空襲の効果を調査しました。300人以上の将校、300人以上の学者を集めて日本中でどういう影響が出たのかという調査をしました。その結論は、アメリカという国は、民主主義国家だ。民主主義国家は戦争を長くつづけられない。だから1年か2年続ければ、われわれはいま占領したところを手に入れて戦争を終えることができる。一方その前のルーズベルト大統領は、ナチと日本軍は徹底的に排除すべきと言った。それと180度違うことを言って日本は戦争をすすめたのです。そしてそのウソと詭弁を新聞社は拡大する。それを国民が信じる。こういうことだったと思います。そしてそのウソと詭弁の流れが今の日本ではないでしょうか」と指摘しました。

さらに孫崎さんはつづけます。

「昭和21年に伊丹万作さんという方がこういうことを言っています。『戦争責任者の問題について、多くの人が今度の戦争で“だまされていた”という、しかし“俺がだました”という人間はまだ一人もいない。日本人全体が互いにだまし、だまされていった。新聞報道の愚劣さや町会・隣組・警防団などの民間組織がいかにも熱心に自発的にだますことに協力していったか、これは戦後の悪政を許してきた奴隷根性と密接につながる。だまされていたということを平気で言っている国民は今後も何ぼでもだまされるだらう』と言っています」

◆いままた、だまされる時代に入ってきた

「いま日本はだまされる時代に入ってきたと思います。」

原発一地震で危ないことはあれだけ明確にわかったのに再稼働しようとしている。TPP—日本の防衛問題と基本的に何ら変わらない。安保条約第5条は、“日本の管轄地が攻撃されたときは、アメリカは自分の国の憲法に従って行動をとる”と言っている。あらたに東アジアの安全のためにアメリカが集団的自衛権で約束したことは何もない。それだけではなくて4月にガイドラインがあらたに合意された。日米軍事協力をどのようにしていくかというのを決めたもの。日米軍事協力・集団的自衛権を推進しようとしている人たちは、中国の脅威がある、そのため抑止力を高めなければいけないと言っている。ところでガイドラインはどう書いているのか、島々の防衛は主体的には日本がやる。アメリカは補足的に対応する、何もアメリカが出てくることを約束しているわけではない」

「いま原発・集団的自衛権・TPPなど大きな問題がある。これらに一貫して流れている思想は何なのか、それは日本社会を大きく変えようとしている問題だ。戦後日本は命を守る、健康を守る、人びとが出来るだけ幸せになる、このような社会をつくらうとしてきた。しかしいまこうしたことと全く違った思想が出てきたんだと思う」

◆ “イスラム国” での後藤さんの死は、政府のアメリカいなりの結果

「“イスラム国” に後藤さんが捕まったことがわかったと

きに安倍は『あらゆる努力をする』と言いました。だけどそれは全くのウソと詭弁におわりました。あの後、菅官房長官は『われわれは、“イスラム国” と交渉するつもりは何もなかった。お金を出すつもりは何もなかった』と言っている。人質を助けるつもりはさらさらなかったと言っている。過去人質はいろんなところで捕まった。その時に犯人と交渉しないと行ったことはありません。今回なぜ交渉しなかったのか。そこで明瞭なことはアメリカの報道官が『交渉するな。それは日本政府に伝えてある』と言っていることでもはっきりしている」

「今度集団的自衛権で自衛隊が出かけていきます。今日戦場で死ぬ割合と後方で死ぬ割合は100対100。すでに後方支援で人は死んでいる。そのときに安倍氏やその周辺の人々の言うセリフは『われわれは自衛隊員を犠牲にするという貢献をしました』というと思う。そういう国になってしまった。人の命を差し出すことによって自分のポジションを強めようとしている」

◆ アメリカによる中国脅威論で緊張をつくりだし、国民に重い負担

「そういうことで考えてみますと、いま安倍氏がやろうとしていることは、中国の脅威ということをおっしゃいます。中国の脅威と言いますが、きわめて簡単なことは、尖閣諸島を棚上げにすれば日中間で軍事紛争が起こることは全くない。1979年、読売新聞すら、「尖閣諸島で合意が

ある、だから守ろう、尖閣諸島で紛争するようなことをしちゃいけない」と言っていた。だけどいま日本で田中角栄と周恩来の間で棚上げの合意をした尖閣諸島を紛争のタネにするようなことはしないよという政治家はもういなくなりました。尖閣諸島は俺のもの俺のものと言っている。そうすれば紛争になる。だから棚上げにして関係を発展させよう。例えばドイツとフランスは、第一次、二次と戦争をした。しかしいま戦争をしていない。それはお互い協力をするということで領土とかいうよりは戦争をしないということの方が重要だと考えている」

「それじゃ何故日本はそれとは違う方向に行っているのか、それを自分たちの頭の中で考えているのか。そうじゃない。米国が緊張を煽ることによって日本をそちらの方向にもっていく、自衛隊をアメリカの戦力のために使う、日本の軍事費を上げて、そしてその軍備を自分たちのために使う、オスプレイを日本に買わせてそれを自衛隊に持って行って、そして自分たちの戦力のために使う、辺野古への移転を促進する、そのために日中の緊張があった方がいい、アメリカの戦略のためにあえてついていくという国になってしまったと思います。」



戦時下、侵略戦争推進の 拠点となった東京の実相 東海林次男さん

東海林さんは、パワーポイントをつかいつつ「戦後70年、東京空襲の事実とその継承を考える」について発言されました。

◆はじめに

・鎌倉時代の元の襲来以外は、日本が海外に攻めていった戦争。それらを聖戦と言えるか。

・戦利品を天皇に献上し、振天府、建安府などに収蔵。一部は靖国神社などに下賜。

・国民学校世代が受けた教育

「天皇は神様である」「神国日本が負けることはあり得ない。いざとなったら神風が吹く」

「国のために命を捧げるのは当然である」「生きて虜囚の辱めを受けるな」「堂々と戦死すれば、靖国神社に英霊として祀られる」（ジェームス三木「ドラマに首ったけ 5」『しんぶん赤旗』2014年7月13日付）

・いろいろな体験は有意義であるが、戦争は体験してはいけないもの。これが歴史に学ぶということ。

I 軍事都市東京

軍事都市は、その成り立ちより、軍都と軍港、空都の三つに分類できる（註1）。

○軍都は、陸軍の師団、そのもとに編成される旅団や連隊などが置かれた軍事都市。

○軍港は、海軍の港湾軍事都市。海軍工廠を併設。横須賀、呉、佐世保、舞鶴。

○空都は、航空部隊が常駐する飛行場を基本とし、航空工廠、



航空学校、整備学校などがある防空軍事都市。立川、所沢、浜松、各務原（かかみはら・岐阜県）、八日市（滋賀県）、太刀洗（福岡県）など。

《註1》鈴木芳行『首都防空網と〈空都〉多摩』吉川弘文館 2012年

1. 天皇・宮城（帝都）を守るために

*宮城遙拝

①近衛師団←御親兵 北の丸に司令部（近代美術館工芸館）近衛歩兵第一・第二連隊（北の丸公園）同第三連隊（TBS）同第四連隊（國學院高校他）同騎兵 同野砲兵 同工兵大隊 同輜重兵大隊

第一師団←東京鎮台 東京近郊の警備 東京歩兵第一連隊（東京ミッドタウン）同第三連隊（国立新美術館）〈甲府・49連隊 佐倉・57連隊〉

②宮城を囲む位置に高射（機関砲）千鳥が淵・天守台・第一生命ビル屋上・学士会館屋上など

③天皇の防空壕＝お文庫

2. 戦時下の東京＝大日本帝国憲法の時代

①皇民化教育 修身教科書 靖



国神社 国家神道 明治学院大学の奉安庫

②国威宣揚 国旗掲揚塔などに「国威宣揚」八紘一宇 爆弾（肉弾）三勇士 ⇒ マスコミの戦争責任

③物資不足 金属供出 主人公がいない台座 梵鐘がない鐘楼（梵鐘代替品）日本橋三越のライオン像

④防空 高射砲 中央区立常盤小学校の待避壕 防空壕

⑤空襲被災 墓石 東大和の変電所・給水塔

II 戦争は体験してはいけないもの

語り継ぐことの大切さ

1. 空襲の実態

①日本軍による重慶爆撃（註2）

(2) 1938年から43年の間、中国・四川省重慶をはじめ近郊都市に向けられた無差別爆撃。

・世界最初の「意図的・組織的・継続的な空中爆撃」・「眼差しを欠いた殺戮」もっぱら高度数千メートルの高みから爆弾(焼夷弾)を投下。

・爆撃が「都市そのもの」を対象とし、「戦場の死」とは異なる「肉親の死」や「一族被災」が街中で生みだされた。

②ドーリットル空襲(1942年4月18日) = 東京初空襲 (註3) 真珠湾攻撃の復讐

③アメリカ軍による戦略爆撃 (註4)

・1943年3月～ ユタ州ダグウェイ基地に24軒の日本家屋の「密集村」を作り、M69焼夷弾を投下してその効果を検証する実験。木造2階建てで、各家

には障子や畳、ちゃぶ台、座布団、茶碗や箸まで置かれた。

・1943年10月 米陸軍航空軍情報部が『日本一焼夷攻撃資料』を刊行。都市の配置や人口統計、火災保険資料などから都市の燃えやすさを分析⇒焼夷区画1～3号
・1944年6月 合同焼夷弾委員会を設置し、日本の6大都市(東京、横浜、川崎、名古屋、大阪、神戸)を焼き尽くすために必要な爆弾投下量や爆撃機数の推定、その空爆がもたらす経済的・政治的波及効果の推測評価などを行わせた。

・「地域爆撃」の正当化 工場が存在し、そこで働く労働者の住居が存在する地域全体を焼夷弾で焼き払うことによって労働

航空団	群団数	手持機数	出撃機数	第一目標投弾機数
第73	4	180	161	137
第313	4	146	110	93
第314	2	59	54	49
合計	10	385	325	279

力を生産手段から乖離させる。
・「昼間精密爆撃」から「低高度夜間爆撃」へ カーティス・ルメイが1945年3月初旬に変更。

先導機が後続機よりもわずかに先行して、定められた照準点に正確に投弾し、火災を発生させ、それを後続機のための目印にする。

・3月10日の空襲継続時間：午前零時7分から午前3時まで。この間に、焼夷弾総計1665トン。

*2月13, 14日のドレスデン空襲 爆弾の総重量3446トン。そのうち焼夷弾は148

炎上する東京のスケッチ

[3]初弾投下から1時間22分、27分後



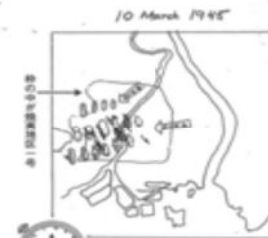
「0229K, 0234Kには、前には手がついていなかった地域に新しい爆発が見えた。0230Kまでには2万5千フィート(7600メートル)に上昇した際のために、南からは観測しにくくなった。」

[2]初弾投下から1時間04分後



「0211Kには、早くに燃えた地域の上に焼夷弾の新たな爆発が見えた。最初の火災群は確實に燃え上がり、どの区域も多くの街区を呑みこんだ。右側に新しい火災が発生した。」(訳註) 火災を赤で示した上に煙を描きこみ、特に焼夷地区の東の境界と荒川放水路との間は煙が濃く「煙で見えない」と記している。

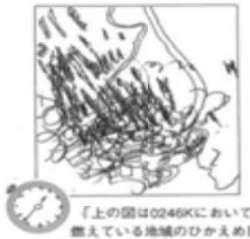
[1]初弾投下から39分後



「最初の攻撃が目標を通過した0146Kには、焼夷地区1号(Incendary Zone One)(本書65頁参照)はすでに十分に爆撃されていた。炎上地域は、それぞれ赤色で示したが、長さはおよそ4分の1マイル(約400メートル)であった。」(訳註) 時刻の下の「K」はK時刻(マリアナ時刻)を示す。1時間を減らせば日本時間になる。「0146K」は日本時間の零時46分である。初弾投下は日本時間で零時7分(本書77頁)。

一九四五年三月一〇日、焼夷弾を投下する攻撃機群のはるか上空を二時間にわたって旋回しながら、炎上する深夜の東京をスケッチした人物がいた。マリアナのB29部隊、第二爆撃機集団の司令官ルメイ(左)と右から二人目)に命じられた部下のパワー(三人目)である。ルメイはこの5枚のスケッチを戦後、アノルド(陸軍航空軍の最高司令官)に贈呈した(米海軍歴史文庫蔵蔵)。

[5]初弾投下から1時間39分後



「上の図は0246Kにおいて、燃えている地域のひかえめ目な見取りである。煙の雲が海岸附近と隣接の工業地域の火災を正確に描くことを助けた。」(訳註) 本書のカバーにあるように、パワーは5枚のスケッチを色鉛筆のようなもので描いている。火災は赤色や橙色、説明の文字は紫色。

[4]初弾投下から1時間30分後



「0237Kまでには、目標の可能な最大の炎上地域は、長さは40街区以上、幅は少なくとも15街区になった。初期の火災の若干は今では後からの火災の煙でよく見えない。」(訳註) [3]から3分後である。荒川放水路の東にも火災が見える。



1 トン。
 《註2》戦争と空爆問題研究会
 『重慶爆撃とは何だったのか』
 高文研 2009年
 《註3》拙稿「真珠湾攻撃の報復としての東京初空襲」(『東京の歴史教育』第43号 2014年 所収)
 《註4》奥住喜重・早乙女勝元
 『新版 東京を爆撃せよ』三省堂 2007年 / 田中利幸
 『空の戦争史』講談社現代新書 2008年 / 荒井信一『空爆の歴史』岩波新書 2008年 / 工藤洋三「米軍が作成した焼夷区画図～東京大空襲の計画～」(『月刊 地図中心』

510号 日本地図センター 2015年 所収)
 2. 学び、語り継ぐことの大切さ
 ①2006年に提訴された「重慶大爆撃訴訟」と07年提訴の「東京大空襲訴訟」
 ②浅川地下壕の保存をすすめる会や武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会、軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会などは、機関紙・ニュースを発行、見学会を実施
 各地の空襲慰霊碑を語りつぐ会
 ③東京大空襲・戦災資料センターの存在
 『決定版 東京空襲写真集』の

出版 日本橋川の鎌倉橋の被災痕の訂正
 ④平和・戦争遺跡マップの活用
 北区 新宿区 港区など
 ⑤ドイツやポーランドの博物館
 展示、戦争遺跡保存に学ぶ
 ナチ不法を許さない展示 ベルリンのカイザー・ヴィルヘルム教会とドレスデンのフラウエン教会 ワルシャワ旧市街の復元
 以上のようなさまざまなことを交流し、学び交流するためにもぜひ東京都祈念館(仮称)開設を!

1940年発行「大判最新 大東京明細地図」に記載されている軍事施設
 (陸軍官衙 海軍官衙) 東部防衛司令部許可済

*1 ()は凡例の陸軍官衙の地図記号だけがある施設、斜体は地図にはないが敗戦時にあった施設
 *2 地図では省略されている施設名を「大久保小銃射撃場」のように加筆した箇所がある。

旧35区	主な施設
麹町区	陸軍省 参謀本部 海軍省 航空本部 築城本部 教育總監部 近衛師団司令部 近衛歩兵第一・二連隊 軍人会館 靖国神社
赤坂区	近衛歩兵第三連隊 第一師団司令部 歩兵第一連隊 陸軍大学校
麻布区	歩兵第三連隊
品川区	海軍大学校
目黒区	海軍技術研究所 駒沢練兵場 騎兵第一連隊
世田谷区	第二旅団司令部 近衛砲兵連隊 野砲第一連隊 野砲第八連隊 重砲兵第四連隊 野戦重砲連隊 第二陸軍病院 陸軍獣医学校 陸軍衛生材料廠 陸軍自動車学校
渋谷区	代々木練兵場 衛戍刑務所 近衛歩兵第四連隊
淀橋区	大久保小銃射撃場 陸軍科学研究所 陸軍技術本部
牛込区	士官学校予科 陸軍病院 陸軍軍医学校 陸軍砲工学校 陸軍幼年学校 陸軍戸山学校 近衛騎兵連隊 陸軍省 大本營
杉並区	陸軍通信学校
中野区	中野電信連隊 陸軍中野学校
板橋区	陸軍工兵科分校 (東京第二造兵廠板橋製造所)
王子区	近衛工兵 工兵連隊 (東京第一造兵廠十条工場 王子工場) 陸軍被服本廠 陸軍兵器補給廠 稲付射撃場
滝野川区	(東京第一造兵廠滝野川工場)
荒川区	千住製絨所
深川区	糧秣本廠



「今が大事」 権谷陽子さんのまとめ発言

権谷さんは、まとめとして次のように話されました。

最初に私がいっしょに勉強している子どもたちの声を聞いて下さい。

Aさん「ここまで戦争について学んだことが無かったので、話を聞いて、とても衝撃でした。今と全く正反対な生活、食べる物だって寝る場所だって不安定で、今では信じられません。でも、本当に信じられなかったのは、ケガ人や死人を増やすだけの戦争を続けた人間の心だと、私は思います。沖縄戦でおこった写真を見た時、言い表せないほど驚きました」。これは、歴史で戦争について学んだあとの子どもの感想です。

B君「小さい頃から学校で教わったことを信じて、あとから考えてみたらひどいことをしてしまった人がいるほど、人間の心は簡単にできていると感じた。だから、誰か一人の教えだけではなく、いろんな人の教えを聞いて、自分の意見や考えをはっきりさせたい」。

この子は、日本軍の加害の事

実を学び、自分なりに「どうしたら戦争を起こさないようにすることができるのか」と考えて、「いろんな人の考えを聞いて自分の考えをつかっていきたい」と考えたわけです。

Cさん「私は、小さい頃から『日本は戦争をしない国』だと信じてきました。それなのに、今、日本は『戦争をしてもよい国』になりかけています。私は、大人の言っていたことは嘘だったのかなと思ってしまいました。もちろん、安倍さんも理由があって考えたことだと思います。きっと、今、日本は戦争をすることの愚かさ、恐ろしさを忘れているのだと思います。それは、私たちや安倍さんでさえ、戦争を経験したことがないからだだと思います。……

でも、今まで伝えてきてくれた人たちのことを思うと、それから、私たちが平和に暮らしていることを考えると、やはり戦争は絶対にしてほしくないし、してはいけないと思います」。

子どもたちはもっともっと戦争のことを知りたいと言っています。私は教員として、子どもたちに戦争の本当の姿を知らせたいと思います。

そういうことをさせないようにしようというのが、今の教科書問題であり、「東京都平和祈念館（仮称）」建設を「凍結」させたものであり、「ピースおおさか」の展示内容を変質させたものではないでしょうか。

孫崎さんは「ウソとダマシの時代に入っている」と言われました。だからこそ私たちは、「騙されないためにどうしていいのか」をしっかりと考えて行動していくことが求められていると思います。

「東京都平和祈念館（仮称）」

の建設を求める運動を続けていくことは、「騙されない」ための大事なとりくみの一つだと思います

展示内容については、「東京都平和記念館基本問題懇談会」がつくった「基本的性格」の四つが重要な到達点だと思います。それを深めあい、みんなで平和祈念館を造っていきたいと思います。戦争を体験された方々がだんだん少なくなっていくなかで、都民からよせられた貴重な資料や財産を次代に受け継ぐ場をつかっていくことは、とても重要です。

孫崎さんや東海林さんが言われたように、「今が大事」だと思います。隣りの人、周りの人に声をかけながら「戦争法案」廃案、憲法を守り、憲法が輝く、ほんとうに平和な国をつかっていくため、みんなで頑張っているではありませんか。

（文責・柴田桂馬）

シンポジウム参加者のアンケート

Aさん

1、合唱を含む全体の企画についてのご意見

美声と深い内容の歌に感じ入りました。一度聞いただけでも涙が出ました。木琴という曲は中学生用で聞いたことがありましたが、このようなことが二度とないように強く思います。

2、孫崎 享さんのお話をお聞きになって

毎週文化放送の朝のラジオ番組を聞いているので、直接聞く

のを楽しみに来ました。お忙しいにもかかわらず広い範囲の音楽にも詳しく感心しています。外務省出身なのによくこれだけ自由でおだやかで正論を主張できるのか、御本人の話聞いて改めて思いました。

3、東海林次男さんのお話をお聞きになって

スライド？ 写真のこともっと聞きたかったし、場所が知りたかったです。

4、梶谷陽子さんのお話を聞いて

多忙を極めた生活を送りながら、よく現場で頑張っていたらと思います。生徒の感想、意見がたのもしかったです。どういう先生から習うかで生徒も変わります。

5、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて

会場の方々の発言・質問が、とても良かったです。見識の高さに自らの低さを恥じました。

Bさん

《77歳》

1、合唱を含む全体の企画についてのご意見

合唱は聞けなかったのですみません。全体的にすばらしい企画でした。沢山の人が聞いてほしいと思いました。

2、孫崎 享さんのお話をお聞きになって

さきの戦争の中で 考え方など学ぶことが多く、考えさせられました。今が大事。小さな力で頑張らなければと思います。

3、東海林次男さんのお話をお聞きになって

沢山の残されたものの中から色々学ぶことが多いのですネ。

4、梶谷陽子さんのお話を聞いて

先生のような方に私の子どもは教わりたかったと思いました。

5、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて

目的をたがわない祈念館を作るようみんなで頑張ってください。

Cさん

《71歳 男性》

1、合唱を含む全体の企画に付いてのご意見

合唱は大変よかった。

2、孫崎 享さんのお話をお聞きになって

アジア・太平洋戦争の歴史をリアルにつかむことが非常に大事だと思いを深くしました。

3、東海林次男さんのお話をお聞きになって

戦争の実相を知る内容として、戦跡めぐりなども大きな効果を生むと実感しました。

4、梶谷陽子さんのお話を聞いて

「平和祈念館」建設の経過をリアルに聞けて大変よかった。

Dさん

《63歳》

1、合唱を含む全体の企画についてのご意見

歌声は素晴らしいものでした。歌声の伝える力は大きいと感じました。

2、孫崎 享さんのお話をお

聞きになって

外務省の問題点が良く分かりました。ありがとうございます。

3、東海林次男さんのお話をお聞きになって

東京にもこれだけ多くの戦争遺跡があるのに驚きました。保存することの重要性を感じました。

5、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて

ぜひ作って欲しいと思います。世田谷は今年できます。内容的には十分なものではありませんが。そこは市民の運動で改善させていかなければならないと思います。

Eさん

《74歳 女性》

1、合唱を含む全体の企画についてのご意見

すてきな合唱でした。3人の方々の話も大変勉強になりました。

5、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて

各区や市での戦争展がこの夏もひらかれます。まわりの人が多く参加できる様にお誘いしたいと思っています。私共の足立区でも8月21、22、23と戦争展をひらきます。今回は私も父の死や私の周りで起きた戦争について証言する予定です。

Fさん

《女性》

1、合唱を含む全体の企画についてのご意見

「この灯」の歌声には、い

つも心がふるえます。全体企画、充実していました。

もっと広く知らせて参加者をふやしたいものですね。若い人にも来ていただいて発信してもらおうと良いのでは。

2、孫崎 享さんのお話をお聞きになって

短い時間で充実したお話を伺うことができました。現政権のアメリカいいなりの姿もよくわかりました。

Gさん

《女性》

1、東海林次男さんのお話をお



故高岡岑郷さんを偲んで

東京都教職員組合

大山 圭湖

6月26日、「東京都平和祈念館（仮称）建設をすすめる会」を中心になって担ってこられた高岡岑郷さんが亡くなりました。81歳の誕生日の前日だったと、葬儀の場でお嬢さんが話されました。大きな星が落ちてしまったのだと実感するとともに、ただ寂しく思う毎日です。

聞きになって

スライド、圧巻でした。東海林さんが、ずっと調べつづけてきたことが、今こそ大切な拠り所になっていることを感じた。

4、糀谷陽子さんのお話を聞いて

生徒のこぼれ話を伝えながら語られたことが、さすが糀谷さんだと思いました。平和教育について委縮することなく広げたい。夏休みの課題なども交流していけるといいですね。

5、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて

世田谷区立平和資料館（8月

今年の1月に、会議を終えて電車で途中までご一緒する機会がありました。高岡さんは、「大山さん、僕はもう80なんだよ。いつまでもこうしているわけにはいけませんよ」とおっしゃったのです。そのときには、まさか半年後にお亡くなりになるとは、私はもちろん、高岡さんご自身も思っていられなかつたことでしょう。私は、「そんなことをおっしゃらず、まだまだ私たちをリードしてください」などと、のんきな返事をしてしまいました。

高岡岑郷さんは、1991年から都教組の執行委員長を務められました。ご退職後は、「国民学校1年生の会」事務局長、東京大空襲・戦災資料センター運営委員、東京革新懇代表世話人、九条の会東京連絡会事務局担当等々、平和を守る活動を継続していらっしゃいました。きっとそのエネルギーの源は、本来ならば小学校に通うべき6年間

15日オープン）に注目しています。都立の平和祈念館が一つの拠点としてさまざまなことを発信する可能性を求めていきたいと思います。

Hさん

1、合唱を含む全体の企画についてのご意見

今日は来て本当によかったです。歴史をしっかりと学ぶことは、同じ過ちを繰り返さないために大切ですね。「今この瞬間、この力をさらに広げないと後はしぼむ」というお話が胸にひびきました。

を、国民学校に通わされたことにあったのではないのでしょうか。高岡さんたちの学年は、唯一、6年間国民学校に通い続けた学年だったのです。その無念さを、繰り返し語られていました。

「東京都平和祈念館（仮称）建設をすすめる会」運営委員会では、敗戦後70年を迎える今年こそ、運動を大きくすすめようと話し合いました。そのためパンフレットの作成を、高岡さんが引きうけてくださいました。しかし、そのパンフレットが完成する前に、高岡さんは病に倒れられたのです。さぞや無念だったことと拝察します。

高岡さんは、ご自身で精力的に行動されるだけでなく、どんな小さな悩みや相談にもていねいに応じてくださり、適切なアドバイスをしてくださいました。平和を希求する思いを受けつぎ、微力ながら力を尽くしたいと思います。

資料館めぐり 15



世田谷区立平和資料館

世田谷区立平和資料館が8月15日に区内池尻の世田谷公園内にオープンし、セレモニーが行われました。玉川小学校の空き教室を利用して1995年に設置の「せたがや平和資料室」が、同校の生徒増のため維持できなくなり、「平和の灯」モニュメント、平和の祈り像、被爆二世の木（アオギリ、柿の木）のある世田谷公園内に開設されたものです。

平和資料室が区民が利用するには地理的に不便であることもあり、区内のもっと交通の便の良いところに平和資料館を建設すべきであることが、平和団体からは毎年予算要望として区に提出されていました。

この2年間、被爆者団体、平和団体、労働組合からなる「せたがや平和資料館」（仮称）開設にむけた対策会議は、近隣の川崎市平和館も見学し、要望をまとめ、区との交渉を行ってきました。

区作成の当初案に対して、面積を増やすこと、学芸員を置くこと、先行の優れた平和資料館にも学ぶこと、世田谷区らしい独自の内容を持たせること、そのために専門家の応援を求める

こと、開設・運営にあたって区民の声を反映するシステムをつくることなどを、重点的に要望しました。運営にあたっての要望は、「①平和資料館はその内容等から、第3セクター・民間への委託とせず、区が管理・運営をしてください。②学識者・教育関係者（特に社会科教員）・平和・労働団体を含めた「せたがや平和資料館」（仮称）運営協議会を早急につくり、行政と区民が協働でその開設準備と運営にあたるようにしてください」となっています。

しかし、実際には要望はあまりとりいれられず、推移しています。

展示内容を見ても、順路がなく、何を訴えようとしているかが明瞭でなく、スペースは狭くても区内の専門家の応援を得れば内容を改善できると感じます。

区職員だけで取り仕切るといわずでなく、被爆者団体、平和団体などをもっと信頼しての、区民の声を反映した平和資料館の運営のシステムが求められています。

1983年に区に非核平和都市宣言を求める運動が始められ、いくつものドラマを生んで1985年に「世田谷区平和都市宣言」が実現しました。当時、米

ソの核軍拡競争が激化し、核兵器は80年代後半に7万発のピークに達するまでになりました。それに対する区民の危機感は強く、人類の生存が危うくされている、いちばん身近な自治体を平和の砦にしようと運動を広げてきました。区議会での継続審議＝廃案というカベをはねのけての、7万の署名を積み上げた運動でした。

現在1万6000発が配備・貯蔵されている核兵器のごくわずかが使われただけで、気候変動が起き、文明が破壊される危険の中に人類はあります。

草の根から非核平和の声を、戦争法の廃止の声とともに高めていきましょう。

橋本 博（世田谷原水協代表理事）



所在地：154-0001 世田谷区

池尻1-5-27 世田谷公園内

電話番号：03-3414-1530

ファクシミリ：03-3414-1532

公共交通機関：世田谷線、田園都市線 三軒茶屋駅・田園都市線 池尻大橋駅 徒歩18分

バス 自衛隊中央病院入口

下車すぐ

開館時間 午前9時～午後5時

入場は無料です

休館日：毎週火曜日（火曜日が祝日の場合はその翌日）

年末年始：12月29日～1月3日

備考：平成27年8月15日（土）より開館

中島飛行機武蔵製作所・ 旧変電室の解体

牛田守彦

武蔵野の空襲と戦争遺跡を
記録する会・副代表

戦後70年の夏に、誠に残念ながら報告をしなければならない。かねてより保存と有効活用を求めている中島飛行機武蔵製作所・旧変電室が7月末、解体された。武蔵野市緑町にある都営武蔵野アパートの敷地、隣接する都立武蔵野中央公園の拡張予定地内にあった。戦前は中島飛行機武蔵製作所のほぼ中心に位置し、たびたび「爆撃照準点」とされた場所にほぼ相当する。

同工場は、零戦や「隼」といった日本の陸海軍機のエンジンの約30%を生産する日本有数の大軍需工場で、1938（昭和13）年に開設された。その後拡張され、最盛時には約5万人が昼夜24時間体制で働いていた。その重要性のため、アジア太平洋戦争末期の日本本土空襲では最重要な爆撃目標となった。

1944（昭和19）年11月24日のマリアナ諸島からのB29による日本本土初空襲に始まり、終戦までに合計9回の空襲を受け、工場内だけで200名以上、周辺では数百名の市民が巻き添えで亡くなった。

旧変電室は、工場を中心部に位置しながら爆撃を免れ、戦後は都営アパートの管理事務所棟、その後、倉庫等として生き延びてきた。この建物を含む約1.1haは、アパートの建替えに伴い、当初は民間払下げが計画されていたが、住民の要望で公園

となることになった。その敷地

に、南北約18m、東西約9m高さ約7.5mの長方形の建物が残っていたのである。

私たち、武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会は、地元の自治会の皆さんとも協力して、この旧変電室の存続と有効活用を求めてきた。しかし、都は、東大和市の旧日立航空機立川工場・変電所跡のように爆撃による弾痕などが見当たらず、遺跡としての価値が低いこと、維持管理が困難なことなどを理由に私たちの要求を拒否し続けた。

解体に当たり、せめてもとの思いから遺物の収集、写真や実測による記録、未公開だった部分を含め、関係者への公開を求めた。その結果、公開等が実現したが、解体当日の午前中という不十分なものとなったが、その際、これまで不明だった天井部分に爆弾（不発弾）が通過した直径約40cmの痕跡が発見されたのである。

「弾痕などが見当たらない」から遺跡の価値が低いとされて

きた根拠が崩れたことになる。残すことができず、誠に残念である。今後、私たちは、同地に平和記念碑や説明板の設置を求めていく所存である。皆様のご支援と感謝し、引き続きご支援をお願いする次第である。



東京都議会議長宛「東京都平和祈念館（仮称）」建設を求める署名についてのご協力をお願い

これまでにご協力をお願いしてきた署名については3月に開催される第1回定例会で審議されるよう取り組みます。

そのため、12月1日から16日までに提出することが必要となります。できるだけ11月末までにお寄せ下さい。

その後も追加提出出来ます。

これを受けて2月中旬に文教委員会で審議されます。

各地の夏の平和展

三多摩平和交流会

「戦争を記憶し、三多摩から平和な未来を考えよう」をスローガンにした“三多摩平和交流会”は7月4日、5日、立川市の柴崎学習館で第3回目を開催しました。“三多摩平和交流会”は、2年おきに11月に開いてきましたが、今回は戦後70年の節目、また安倍政権の暴走との戦いの中での取り組みとなり、思い切って準備期間を短縮して7月に開催、また展示を含め、初めて2日間の開催となりました。

今回の展示された1597名の三多摩民間空襲犠牲者名簿は大変関心が寄せられ、新聞、テレビからの取材もありました。実行委員会では全国の犠牲者名簿の公表の実態や個人のプライバシーの扱いなども調査し、名簿の公表・展示にふみきりました。この三多摩民間空襲犠牲者名簿は軍属でない一般市民であるがゆえに私たちでないとわからないという日本の戦後政治の実態を告発していくことも意味していました。

第1日目に青年学生企画、戦場のジャーナリストの志葉玲さんを招き、講演「世界の今から日本の将来を考える」と題しての、イラクやガザ地区への取材を放映しながらの講演がおこなわれました。今、起きている戦争で使用されている多くの武器に日本企業が関与していることや、現地を踏んで多くの犠牲者と悲惨

な実態が告発されていました。若者シンポジウムでは医療・教育・学生分野から5人での討論となりました。自分の周りにいる人たちに「どう平和を訴えていくか」が実際の体験に沿って紹介されました。働く時間の長いことや賃金の安いことなど青年が自由にものを考え、活動することが困難にしていることが告発されていました。

この青年企画は農工大学・学生9条の会が中心になっています。

2日目には三多摩空襲犠牲者の確認、調査にあたった三村章さんによる講演がおこなわれました。70年前の空襲で1597名の犠牲者の確認がされていることや民間の団体の手によって現在も情報の収集と調査、確認が進められていること、その中で昭島市地域の体験者に直接取材を重ねながら調査でまとめた空襲被害の実態の出版までが話されていました。高尾山の中央線いのはなトンネルでの艦載機による列車銃撃で多くの方がなくなっていますが、同乗の姉を失った体験を黒柳美恵子さんが語って

くれました。「戦争は負けても勝つてほしいような被害をもたらすもので2度と繰り返してはいけない」と語っていました。

参加者2日間で200名を越え、空襲犠牲者での新しい



情報が三件寄せられました。

今回、戦後70年にして初めて三多摩民間空襲犠牲者の1597名の一人一人の氏名と年齢・性別が公表されましたが、この一人ひとりが日本のあの戦争について政府が果たさなければならないことを告発しています。去る9月19日に安倍政権は『戦争法案』を強行可決しましたが、現代の知恵と力で歴史に即した新しい政治に変える時だと実感しています。

2015年10月14日

第3回三多摩平和交流会
事務局長 永元 実

各地の夏の平和展

三多摩平和交流会

「戦争を記憶し、三多摩から平和な未来を考えよう」をスローガンにした“三多摩平和交流会”は7月4日、5日、立川市の柴崎学習館で第3回目を開催しました。“三多摩平和交流会”は、2年おきに11月に開いてきましたが、今回は戦後70年の節目、また安倍政権の暴走との戦いの中での取り組みとなり、思い切って準備期間を短縮して7月に開催、また展示を含め、初めて2日間の開催となりました。

今回の展示された1597名の三多摩民間空襲犠牲者名簿は大変関心が寄せられ、新聞、テレビからの取材もありました。実行委員会では全国の犠牲者名簿の公表の実態や個人のプライバシーの扱いなども調査し、名簿の公表・展示にふみきりました。この多摩民間空襲犠牲者名簿は軍属でない一般市民であるがゆえに私たちでないとわからないという日本の戦後政治の実態を告発していくことも意味していました。

第1日目に青年学生企画、戦場のジャーナリストの志葉玲さんを招き、講演「世界の今から日本の将来を考える」と題しての、イラクやガザ地区への取材を放映しながらの講演がおこなわれました。今、起きている戦争で使用されている多くの武器に日本企業が関与していることや、現地を踏んで多くの犠牲者と悲惨

な実態が告発されていました。若者シンポジウムでは医療・教育・学生分野から5人での討論となりました。自分の周りにいる人たちに「どう平和を訴えていくか」が実際の体験に沿って紹介されました。働く時間の長いことや賃金の安いことなど青年が自由にものを考え、活動することが困難にしていることが告発されていました。

この青年企画は農工大学・学生9条の会が中心になっています。

2日目には三多摩空襲犠牲者の確認、調査にあたった三村章さんによる講演がおこなわれました。70年前の空襲で1597名の犠牲者の確認がされていることや民間の団体の手によって現在も情報の収集と調査、確認が進められていること、その中で昭島市地域の体験者に直接取材を重ねながら調査でまとめた空襲被害の実態の出版までが話されていました。高尾山の中央線いのはなトンネルでの艦載機による列車銃撃で多くの方がなくなっていますが、同乗の姉を失った体験を黒柳美恵子さんが語って

くれました。「戦争は負けても勝つてほしいような被害をもたらすもので2度と繰り返してはいけない」と語っていました。

参加者2日間で200名を越え、空襲犠牲者での新しい



情報が三件寄せられました。

今回、戦後70年にして初めて三多摩民間空襲犠牲者の1597名の一人一人の氏名と年齢・性別が公表されましたが、この一人ひとりが日本のあの戦争について政府が果たさなければならないことを告発しています。去る9月19日に安倍政権は『戦争法案』を強行可決しましたが、現代の知恵と力で歴史に即した新しい政治に変える時だと実感しています。

2015年10月14日

第3回三多摩平和交流会
事務局長 永元 実



小平市

2015「平和のための戦争展・小平」の特徴

今年の戦争展（第21回）は7月31日から8月2日まで、小平市中央公民館で、小平市教育委員会の後援を得て開催されました。

今年の戦争展で特筆すべきことは4つあります。

まず第一は、今年も小平市にある白梅学園大学の平賀明彦先生の指導のもと、3日間に60人の学生さんが来場し、熱心に展示を見て、実行委員の説明に耳を傾けて下さったことです。

第二は、7月末に東京新聞の記者が取材にこられ、8月2日の朝刊に“反戦の思い小平から発信”として、大きく報道されたことです。私たちは今の政府が「戦争しない国」から「戦争する国」へ国の形を変えようとしているのではないかと危惧しています。東京新聞はその私たちの思いに共感し、報道して下さいました。

第三は、太田治子さんの講演会を“作家と戦争”というテーマで開催したことです。

太田さんは終始易しい話し言葉で、わかりやすく語られましたが、内容はきびしい反戦の思いがこめられていました。そしてその反戦の思いの根底には、太田さんの優しさ、ゆるぎない人間主義が存在するように思いました。

最後にもう一つ、私たちは毎年戦争展が終わってから記録集を刊行しています。今年も21冊目を編集中です。この記録集には来場者の方々の感想が記録されており、特に若者たちが、「戦争について知らないことがまだまだたくさんあったと実感した」とか「私は大学2年で、戦争についてほとんど知らない世代ですが、私たちがしっかりと戦争について学び、次の世代へ伝えていかなければならないと感じました」という言葉に、私たち実行委員ははげまされています。（西村 暢夫 記）

渋谷区

第26回「渋谷原爆写真展」～平和のための戦争資料展

被爆・戦後70年「核兵器のない世界・原発ゼロを」第26

回「渋谷原爆写真展」一平和のための戦争展一が、8月1日（土）～2日（日）に渋谷・上原社会教育会館で開かれ、延150人が訪れました。

写真展では、新しく戦後70年・日本の侵略戦争の実態「戦争する国」の真実、核兵器禁止条約を一日も早く、あの苦しみは二度と、東京大空襲・戦火消えぬ記憶、国際法違反の無差別爆撃、許すな！戦争法案・守れ！平和憲法の資料を展示しました。

「写真展・平和のつどい」の第一日には、元上原中学校の教諭で、現在、東京歴史教育者協議会の東海林次男会長が、「渋谷の戦跡と山の手大空襲」について講演。

第二日は、第一部で、練馬被爆者の会副会長で僧侶でもある、東條明子さんが被爆体験を語られました。

東條さんは、10歳のとき、3月10日の東京大空襲にあい、そのため広島に疎開して8月6日、爆心地から4キロ離れた学校で被爆した体験を語られました。そして日本原水爆被害者団体協議会の代表の一員として、ニューヨークの行動に参加された体験も通し、仏教の教えからも、核兵器のない世界にしなくては、と強く訴えられました。

第二部は、「被爆・戦後70年の日本のいま」のテーマで、歴史教育者協議会・前委員長の石山久男さんが記念講演。

石山さんは、まず「戦後70年の動きと私たちでは、①植民地支配と侵略をめぐる日本国民と日本政府の認識の現状から説き起こし、②村山談話を否定し植民地支配と侵略の事実を否定したい安倍政権、③なぜ歴史歪

曲が戦後70年のいまなお、はびこるか④⑤日本国民の共通の歴史・現代認識をどうつくるか、について話されました。そして戦後世界は、戦争廃絶と平和の機構づくりにむけ努力が続けられ、平和共同体づくりや、核廃絶は道半ばだが、化学兵器・地雷など非人道兵器の禁止が実現していること、原水爆禁止・核廃絶運動、被爆者の運動の大きな役割などについて語られ、最後に安倍政権が進める「戦争する国づくり」のための戦争法案を許さない運動の重要性について語られました。

参加者からはつぎのような感想文が寄せられました。

(39歳・男)

安保関連法案のこともあり、世間の平和に関する関心も高まっていることもあり来館しました。このような展示が学校をはじめいろいろな場所で行なわれると良いと思います。

(10歳・女)

戦争はとてもこわいことです。絶対に体けんしたくないのに、世界では戦争をしています。安倍さんがやろうとしています。私はとても怖いです。もし戦争が起きてしまったらどうしよう。神様、戦争が起きませんように」

(「渋谷原爆写真展」実行委員会 代表委員 三橋勝郎 記)

あきる野市

2015年

“新・原爆と人間展”

毎年のことですが、あきる野原水協では8月には、新・原爆と人間展を市役所コミュニティーホールで開催しています。

今年も例によって、8月10日から14日までの5日間、新原爆と人間展を開催し、広島市民が描いた原爆の

絵約30点を展示することができました。

今年は、被爆70年でもあったので、年配の方の参観者が多いような気がしましたが、新しい試みとして、ビデオ映像に、「語られなかった戦争」侵略を用意しましたが、これについての加害者の証言は、見ている人の心に痛いほどの感銘を与えたようです。見終わって感想を話して帰る人が3人ほどいました。

70年も昔のこととして忘れ去られていいものか？ 戦争の悲惨さは、孫子の代にまでも伝えていかなければならないと痛感した5日間でした。

以下に、感想文のいくつかを掲載させていただきます。

◆40歳代 男性

人類の生命の権利を脅かす悪魔の兵器、核兵器を廃絶しないといけません。唯一の被爆国であり、福島原発の被害を受けた日本が、日本人が先頭に立って、アメリカ、ロシア、中国など核保有国に廃絶を期限を設けて訴えなければいけないと思います。ノーモアヒロシマ・ナガサキ・フクシマ！！

◆70歳 女性

被爆した人達の70年間を思うと胸がつぶれる思いです。戦後70年のこの節目の年にあつ



て、平和への思いを強く思います。また、日本を戦争する国にしてはいけません。最近では、8月6日、9日の原爆投下を知らない子供たちが増えていると聞きます。このような催しを続けていってほしいと思います。

◆70歳代女性

広島と長崎の集会の様子をテレビで見ましたが、原爆の被害にあった人は、高齢化して、どのように悲惨な様子を伝えていくかを心配していました。やはり写真や絵、DVDなどの力を借りて運動していくべきだろうとおもった。

◆30代 女性

私は、広島県に近い山口県の岩国市に生まれました。小さい頃から戦争・原爆のことはよく聞き、資料館にも行きました。このことを、いま3歳の息子にどう伝え、どう教育していくかは、私達にかかっています。平和を祈りつつ、考えていきたいと思っています。

◆70代 男性

毎年、原爆と人間展を見せて貰っています。その都度このような残酷な兵器があつていいものか？を考えます。そのことが毎回頭をよぎっていますが、そうこうする中に、戦争がなければこのような兵器は使う必要がなくなるのだと気づきました。

なんとか戦争のない世界にして
いきたいものです。

◆70代 女性

原爆展のお知らせのチラシや
ポスターなどでもう少し宣伝を
増やして、多くの人に見てほし
いと思います。

多摩地域平和事業連絡会のパ
ンフレットを見ましたが、多摩
各市の終戦70年の行事で、あ
きる野市の行事が、黙悼以外に
何も無いことに落胆しています。
何かやるべきことを考えるべき
ではなかったでしょうか？

（あきる野原水協理事長 瀬沼
辰正）

品川区

しながわ 平和のための戦争展

第32回目を迎えた「平和の
ための戦争展」は、8月13日
から17日までの5日間、大井
町の品川区民ギャラリーに於い
て開催、安倍政権による衆議院
での「戦争法」案強行採決とい
う事態の下で関心も高く、来場
者は500名余にのぼりました。
特に「戦後70年」の節目にあ
たる年でもあり、最終日の一日
は小島義一さんが描いた60枚
にもものぼる城南空襲の絵を展
示しました。（小島さんは194
5年5月24日、25日の城南
空襲の体験者、当時13歳）

今回のテーマは、日本を「戦
争する国」にさせないためつぎ
のようにしました。

I、日本国憲法と集団的自衛権
—20名を超える地域の方々
が書きあげた「日本国憲法前文」
と「憲法第九条」が広い壁面を
埋めました。（書で平和の心を！）

昨年「集団的自衛権行使容
認」閣議決定以降の論議や、自
衛隊の米軍との訓練等々に見ら
れる既成事実化の実態。日本国
憲法と自民党改憲草案の比較。
安倍政権の人づくり政策と教科
書問題。沖縄辺野古基地と県民
のたたかい等。

II、日本の侵略戦争とアジア—
東南アジア諸国の教科書の記述
を中心に日本の侵略戦争の事実。
III、地域と戦争—戦時下の教育、
城南空襲と品川の戦争遺跡。
IV、憲法を守るたたかい—品川九条の会、子
どもと教育九条の会等
の活動と反原発、反戦
争法案の区内パレード
のとりくみを展示。

催しの第一は、金子
勝さん（立正大学名誉
教授）による「日本国憲法と戦
争法案」と題するお話。「戦争
法案」は「アメリカの侵略戦争
のための侵略戦争法。九条を廃
棄する壊憲的改憲だ」とされ、
「星の数ほどの学習会。語る会
を」そして「反安保、反安倍平
和統一戦線結成」の重要性を語
られました。

第二は、鈴木賢士さん（フォ
トジャーナリスト）によるビデ
オとトーク。「日本軍の重慶爆
撃」。DVDは「半面美人—被
爆者、趙茂蓉さんの証言」。

第三は、「沖縄の現場から学
ぶ」としてDVDと報告。沖縄
三線と唄、紙芝居「蛸捕り物語」
など。

催しを通して展示内容をさら
に深めることが出来ました。

会場のなかで寄せられたアン
ケートの中の一つを紹介します。

「私自身戦争を知らないし、
祖父母も戦争を語らずに亡くな

りました。展示を見て戦争のこ
とを追体験し、『もう二度と戦
争を行なわせない』と誓いをた
て、子どもたちに伝えていき
たい」（50歳代女性）

（扇谷道子 記）

中央区

8月に変更して小中学生が
増加

平和をねがう中央区民の戦
争展（東京・中央区）



「平和をねがう中央区民の戦
争展」（平和プラザ2015）
は8月21日（金）・22日
（土）、月島社会教育会館4階
ホールで行われ、約200人が
来場しました。これまでは、東
京大空襲の3月10日を中心に
開催してきましたが、多くの子
供さんや若者に来ていただくた
め、今回から8月に変更しまし
た。日曜日が確保できなかった
ため、実質1日半の日程になっ
てしまいましたが、実行委員会
の総括としては、戦争法案と憲
法問題に特化した企画が目ざ
され、小学高学年や中学生も何
名か来ていただいたことで、高
く評価しているところです。

安倍政権が集団的自衛権の解
釈を変え、その先に憲法9条の
明文改憲を狙っている危機感か
ら、メイン企画の「戦後70年」
の講演は元外交官の浅井基文さ
ん、憲法問題の学習会の講師は

「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表の黒澤いつきさんにお願ひしました。

安倍政権が、戦争法案の必要性として「中国の脅威」を挙げていることから、外務省で中国課長を務めた浅井さんに反論をお願いしていましたが、浅井さんは豊富なデータを用意し、「日本人の中国に対する認識・感情は極めて特殊で、国際的な認識・感情とは大きくずれている。つまり、私たちの中国についてのイメージは世界の『常識』ではない」と延べ、来場者も納得された様子でした。

黒澤さんは「憲法カフェ」の経験から、憲法改悪を許さないための運動のアイデアを披露。

「いかに内容が正しくても、そんな内容じゃ伝わらない」と、「伝わらない」例をいくつも挙げました。小さい字がぎっしり詰まったチラシなど、私たちもすぐに改善しなければと思うことがいくつもありました。

展示は、東京大空襲で約350人が亡くなった「明治座の空襲」や、築地警察での小林多喜二の虐殺など、中央区と戦争の歴史にも力を入れ、会場近くに住む人にも興味を持っていただくため、「月島のれきし」を紹介しました。来年も8月に開催しますが、何とか土曜・日曜を含む3日間を確保し、内容も子供さんや若者がもっと興味をひくようなものにしたいと考えています。

(平和をねがう中央区の戦争展
実行委員会事務局 福田和男)

足立区

画期的な第28回足立平和展が開催された!

今年で28回目の「足立平和のための戦争展」が、8月21日～23日の3日間、行なわれました。今回は戦後70年の節目とあいまって、テーマも「戦後70年、日本は戦争をしなかった!これから先は?」と決め、意気高く準備をすすめてきました。

当日、Lソフィアの展示部門1階会場では、足立の空襲・学童疎開の資料と東京大空襲の写真パネルを展示し、学び舎版歴史教科書『ともに学ぶ人間の歴史』の「第9章 第二次世界大戦の時代」30ページ分を拡大コピーしての展示と、それに家永三郎著『太平洋戦争』の年表部分の拡大コピーを合わせて展示しました。

またその時代の治安維持法問題も展示。さらに沖縄の戦中・戦後の実相を資料展示し、何とんでも今回の目玉は今、全国を震撼させつつある「戦争法案」問題をパネルで訴えたことです。

3階会場では、市民公募の「平和美術文芸コーナー」。広い意味での平和をテーマにする作品公募で、今回も多く絵画・絵手紙・版画・書や俳句・詩詞の作品が集まり展示されました。

イベント部門では、2日目の「記念講演と平和コンサートのつどい」が別会場になり心配だったが、会場満杯となり山田敬男氏の戦争法問題の講演とピースフラワー合唱団の演奏・うたう会に熱意があふれました。

1日目の「紙芝居と映画の集い」では、上映機器の操作不備がありましたが、3日目の「戦時証言の集い」では、「足立の空襲」、「満蒙開拓団の引揚が」・「父のシベリア抑留死」の3人の証言があり、「この集いには2人の中学生がいて、初めて戦時体験者の生の話を聞いたという感想があり、中学生参加は私たちにとっても画期的なことでした。

参加者はのべ300人でしたが、来年の第29回展への展望が持てそうです。

(狐塚健一 記)

大田区

第36回 大田平和のための戦争展

今年は下丸子にある大田区民プラザで、8月21日から23日まで行い、実行委員会に参加する7団体が展示に協力しました。

実行委員会としては品川の戦争展からお借りした小島義一氏の1945年5月の「城南大空襲」を描いた絵画作品、「大東亜共栄圏」とは何だったのかを展示しました。初参加の池上小学校卒業生有志による「あの日から70年が過ぎて」も出品しました。

ほかに「大田区にあった満蒙開拓団訓練所」「原爆と人間展と原爆問題」コーナー、大田区で育鵬社教科書を東京書籍に変えさせた「教科書問題」、新婦人大田支部からの「絵手紙」「日本軍慰安婦問題」、区内で活動する「九条の会」からの出品のコーナーが設けられました。

催しもの会場では、毎日紙芝居が演じられ、22日には被爆体験者3人による鼎談で、長崎の被爆体験の話聞くことができました。

また、「平和祈念館を東京に」というテーマで柴田桂馬氏の講演を聞き、大田区で初めての祈念館問題の訴えをすることができました。

22日には、朗読「火垂るの墓」が馬込の婦人グループにより上演され、最後にNHK制作の「ドキュメント・東京大空襲」を上映しました。今年はカラーのチラシ1万枚を印刷し、宣伝しました。入場者は480人で、もっと多くの方が参加してほしいと思っています。

都内で戦争展をしている団体がいくつかありますが、36回続けてきたのは私達だけです。戦争法が成立し、まだ多数が反対しているのに強行された情勢の中、戦争の真実を伝えるための活動はさらに広げていかなければならないと思います。

東村山市

2015年「核兵器廃絶と平和展」に約3800名が来場

東村山市と核兵器廃絶と平和展実行委員会が主催する2015年核兵器廃絶と世界平和を強く訴える「核兵器廃絶と平和展」は、8月24日から9月1日まで、東村山市役所いきいきプラザ1階ロビーで開催され、7日間で3500名の来場者がありました。会場は親子連れが多く訪れ、親が子供に核兵器の恐ろしさ平和の大切さ



を伝えている姿が特徴的でした。ヒロシマ・ナガサキの原爆写真展、市内在住の報道写真家・豊田直巳さんのイラク戦争・福島原発事故の写真、平和の絵手紙などを展示しました。広島資料館からお借りした被爆現物資料、熱線で溶けた茶碗や焼けた学徒の衣服を見た来場者から「二度と核兵器は使わせてはならないと思いました」「市と市民が一体の原爆展はとてもよいと思います」など多くの感想が寄せられました。28日の「サロンコンサート」に140名、30日には富士見公民館ホールで中学生広島派遣事業による平和学習報告会、平和音楽会が開かれ150名の来場者がありました。中学生の「核兵器の恐ろしさを知った。被爆者の証言に心を打たれた。政府は憲法9条を守れ、戦争法案反対」との報告には会場から大きな拍手が送られました。

（核兵器廃絶と平和展実行委員長 儀同政一）

江戸川区

第15回 2015年 平和のための戦争展 in江戸川

毎年8月に開催しています

「戦争展」も今年は15回目を迎えました。

昨年7月の「集団的自衛権の行使容認」の閣議決定を受け、憲法違反の「戦争法案」の是非をめぐり、国会内外はもちろん、

日本国中が大きく声をあげている中での「戦争展」開催でした。

「戦争法案が国会で審議されている中で、こういう会が開かれるのは本当に大切だと思います。」など多くのご意見を頂きました。

「戦争展」では、写真とパネルの展示（広島・長崎、沖縄、原発を立地させなかった地域の展示、パプア・ニューギニアの遺骨収集、改悪されようとしている教科書など）展示品（戦争当時の暮らし、ドイツの戦争参加の実態、平和の短歌・絵手紙・パッチワーク）戦争・被爆の朗読・歌声、



反戦平和のビデオ上映と講演会を実施しました。

今回のテーマは、「戦争で平和は つくれない」でした。講演会は川村俊夫さんにテーマと同様の題でお話いただきました。「今日ここに来て、講演会を聞き、改めて戦争法案反対していく気持ちが強くなりました。」など80名ほどの区民の参加でした

が、大変好評でした。

今回の戦争展は、2日間で講演会の参加者も含め約600名の参加者となりました。

家族や周りの人たちと語りあい、身近なところから平和を考え、行動していける場に少しでもなれたのではと考えています。

「できるだけ若い世代の人に見てもらいたい」等の反省を生かし、次年度の取り組みをすすめていきたいと思ひます。

(実行委員長 丸 宗一)

世田谷区

三茶原水協 雨のため世田谷公園原爆写真展は世界大会報告会



今年は8月30日の原爆写真展でしたが、雨のため中止になりました。

そのため、世田谷公園の隣の小学校を借りて室内での戦争体験の紙芝居と5月のNPTニューヨーク行動の報告、8月の原水爆禁止世界大会の報告を行いました。

初めに、太子堂在住の方から、ラバウルに出兵した戦争体験をもとに作った紙芝居「南海の孤島 さらばラバウルよ」が披露されました。

次に今年5月に行われたNP

T再検討会議成功へのニューヨーク行動に参加した方、2名の方から報告がされました。

「NPT再検討会議の中で核兵器が非人道的であるとの声明が8割以上の国に賛同が広がり核保有国が追いつめられました。私たちの署名運動が国際政治を動かしている」などが述べられました。

次に広島と長崎の原水爆禁止世界大会報告が3名の方からされました。「反核運動で世界の若者と交流ができた」「憲法を

守ることと反核運動は一体です」「被爆者の声を伝えていくことが心を動かす」などが語られました。

また、会場には戦争法案に反対する著名人、芸能人などの新聞記事が展示されました。参加者からは、子どもたちに戦争も核兵器もない未来をつくるために頑張りたい、戦争法反対で力をつくそうと決意が語られました。

立川市

「2015平和をめざす戦争展in立川」

今年は戦争法案反対の闘い最中に開催する事になりました



平和のための戦争展
in立川

(9月4～6日)。メインテーマは「日本をふたたび戦争する国にさせない」で、今年で13回を数えました。

孫崎亨氏を迎えての「記念講演」と展示面50メートルにおよぶ「展示会」です。

戦後70年間、アメリカは朝鮮戦争・ベトナム戦争から今日の中東での戦争とわずか数年を除き、毎年のように海外で戦争を続けてきました。このアメリカの戦争に日本の参戦を許さない歴史的闘いです。

展示は○アメリカの戦争と日本の関わりの年表○戦争法の中身○横田基地問題○沖縄の米軍基地○広島・長崎原爆被災写真○原水爆禁止世界大会と青年○世界に広がる平和の流れ○立川空襲と戦時を描いた地元の画家の絵画と子供への絵本読み聞かせコーナー○砂川基地反対闘争○安倍教育改革○原発再稼働反対○治安維持法の告発○市民の平和の作品などコーナーを区切って展示しました。

孫崎氏「記念講演」で、集団的自衛権は日本が海外での武力行使に踏み出し、日本が現実的危険に陥ると指摘しました。また、極東の政治的・軍事的緊張について領土問題を軍事にしない。外交交渉での平和的解決こそ国民の犠牲を防ぎ、関係国相互の利益を追求できる道である

ことを述べました。そして、戦争を許さない国民的共同を訴えました。

戦争はあらゆる分野での反対闘争と戦争法廃止のあらたな闘いの総力戦です。平和をめざす戦争展の原点もそこに有ると思います。

（「2015平和をめざす戦争展in立川」実行委員会・事務局 龍田康宏）

国分寺市

被爆体験の継承と実相をどう広げるのか

私が暮らしている国分寺市では、非核平和都市宣言をしてから31年を迎えている。宣言の少し前である1981年から3年間にわたって市民による「原爆写真展」が各小学校を巡回して行われていた。この展示活動を通して市民の平和への輪をもっと広げ非核宣言もさせようと「非核平和都市をすすめる会」が発足し1984年8月6日宣言を行った。すすめる会は、活動を広げ次世代への継承こそ大切と、被爆地へのピースメッセンジャーの提案を市にしていた。そして毎年、小・中学生12人が広島を訪れている。（市長引率）

今年もピースメッセンジャーの報告をメインに、市民による合唱、市内小中学生の吹奏楽の演奏と平和の大切さを表現し広げる場として「国分寺市平和祈念行事」が8月29日いずみホールにて行われた。総合企画・演出は演劇人（民芸・田口精一さん）である。ピースメッセンジャーは、まず国分会（国分寺市原爆被害者の会）の方々の話を聞き



事前学習を重ね広島を訪問、「青少年平和の集い」の参加、資料館の見学、被爆体験者の話を聞いたという。

子どもたちは、こんな発表をしていた。

「どうしてこんな怖ろしい物を落としたのか。」

「新原さんの話は、今も心に残っている。生きるぞという強い力をもった人が伝えてくれたからからだと思う。」

「新原さんが従兄弟の名前を呼ぶと、倒れている人もみんなが『おーい』と手を上げた。みんな助けて欲しいと思ったのだ。」子どもたちの発表は真に迫っていた。こうした取り組みをどう生かしていくのか。市としても、私たちも国分会の方と工夫していかねばならない。

一方、毎年ホールのロビーでは非核の会として「原爆と人間」展を行っている。国分会から原爆パネルをお借りしている。今年のハプニングは、小学校の吹奏楽部を引率してきた校長先生自ら展示の前に立ちこう話したのだ。「いいですか。これは70年前に本当にあったことなのです。よく見てください。」とその話をみんな座ってシーンと聞き、その後じっと見入っていた。語りかけにより見方が違ってく

ると思った瞬間であった。

そしてこの秋（11月1日）は『国分寺まつり』で「原爆と人間」展を行う。

これは、市内の小学校からテント・机・椅子を借用できる。

これも「非核平和都市をすすめる会」の引き継いだ力が生きている。この力を活かし市民の輪を広げていきたい。

（国分寺原水協・国分寺非核平和都市をすすめる会 戸部静代）

東京原水協

『原爆と人間展』

2015年11月7日、浅草公会堂展示ホールで「ヒロシマ・ナガサキ被爆70年 原爆と人間展」を開催しました。事前にチラシを朝刊に600枚織り込み、ブラジル大使館に英文チラシを郵送しました。当日は公会堂前で呼び込み、120名が参加しました。「原爆と人間」パネル36枚、「戦争の歴史」新聞20セット、広島&長崎原爆図、ラッセル・アインシュタイン宣言などを展示。プロジェクターで戦後70年の歴史を映しました。

東友会会長の大岩孝平さんはパワーポイントを使い「太陽が落ちてきたかと思う程の強烈な閃光が私たちを襲った。比治山の方から異様な人の群れが列をなしてやってきた。幽霊の絵のように前に半分上げた格好で腕からも焼けた皮膚がぶら下がっ



証言する大岩孝平さん

ていた。人間の皮膚が焼けた異臭が立ち込め、うめき声がここから聞こえた。大勢の人が目の前で死に、山積みになった死体に兵隊さんが重油をかけて焼いた光景は、少年だった私の脳裏に焼き付いて離れず、今でも眼をつぶると鮮明な映像として記憶に蘇える。世界中で1万6千発の核兵器があり、人類を滅亡に導く核兵器の使用は絶対に許せない。核兵器は悪魔の兵器だということを、未来永劫忘れてはなりません。」と証言しました。

日友会の片山昇さんは「父は広島を中心街で写真屋をしていた。1年後に原爆症で亡くなっ



証言する片山 さん

た。広島・長崎の被爆から70年がたち、この長い間、被爆者は体と心に深い傷を負い、不安と苦しみを抱えながらも原爆は人間に何をなし続けるのかを身をもって告発してきた。私は生きている限り被爆の証言をする。被爆の体験の継承に取り組み発

信していく。地球上から核兵器をなくすために。」と地図を示して熱く語りました。

「パタパタ鶴」や「平和の蛙や親子猿」の折り方を教える「折り紙コーナー」で署名や感想文を書いています。

「テレビや新聞等の戦争の特集をよく見るが、原爆被害についてはあまり詳しくは知らなかった。こういった展示がないと原爆の被害を受けた当時の人々の様子や言葉では伝えきれない原爆の恐ろしさを知ることはできなかったと思う。

学生で、原爆投下の日付や都市を知らない人もいると聞く。未来を守るために原爆に対する正しい理解をしていこうと思う。貴重な展示を無料で見せて頂きありがとうございました。」と、女子高校生。20歳代女性は「小六の時、祖父と式典に出るため

広島に行った。今の平和が本当に幸せなんだと実感したのを覚えている。若い私達が伝えていかないと過去のことになってしまい、何度も繰り返してしまうのではないかと思う。」40歳代男性は「戦争しない国を誓った日本国憲法を守るその事こそ今、皆と力を合わせて！原爆の経験、語り継ぎはビデオにとって次の世代へ。」と感想を寄せています。

署名30人、アンケート33人、カンパ1000円集まりました。

東京原水協では今回の「原爆と人間展」を踏まえ、来年も企画していく予定です。

2015年11月13日

東京原水協事務局次長

関 敬子



全空連が4周年 全国集会開催

全国空襲被害者連絡協議会は8月14日、台東区民会館で結成以来4周年の全国集会を開催しました。

この日のテーマは、「時代は動いている—戦争被害のすべて解決のときだ!」でした。

集会では小林節さん(慶応義塾大学名誉教授)、大前治さん(大阪空襲訴訟弁護団)が講演しました。

小林さんは、「あの戦争は何だったのかと考えてみると」「国民の側に戦争を資格を与

えられていない。戦争が政策当局によって誤導され、「国体」と称する天皇制を守ろうと軍部が最後まで抵抗して戦争終結を遅らせた」「その結果、米軍に国際法違反の民間人を対象にした無差別爆撃を敢行させた」と強調、空襲被害者補償法制定を強く訴えました。

被爆70年 東京原爆展

～つたえ広げようヒロシマ・ナガサキ～

広島・長崎の「あの日」から70年が過ぎました。「あの日」、一瞬で消え去った幾万の生命、そのときは幸いに無傷だった人も、救援に駆けつけた人も、急性放射能症に倒れて亡くなりました。

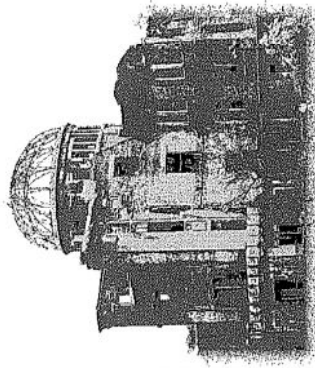
友人や家族を目の前で失った被爆者の多くは、「なぜ自分だけが生き残ったのか」と自らを責めながら、いつ出現するかわからない原爆症の恐怖、いわれのない差別とたたかいていながら必死で生きてきました。被爆者の平均年齢は80歳となり、当時の記憶を残す者も少なくなってきました。被爆者に残された

時間は限られています。

被爆者は、自分たちと同じ苦しみや未来にくり返させないため、核兵器も戦争もない世界の実現を訴え続けてきました。この思いを、次世代を担う若いみなさんに引き継いでほしいと願っています。

今回の原爆展では、NPT再検討会議に合わせて2015年4月から5月にニューヨークの国連本部で展示されたパネルを展示します。原爆は人間に何をもたらすのか、その被害とたたかってきた人びとの歩みを、ぜひご覧ください。

入場無料



日時 2015（平成27）年11月23日（月）～28日（土）

午前10時～午後8時（最終日28日は午後3時まで）

会場 豊島区役所新庁舎1階「としまセンタースクエア」

東京都豊島区南池袋2-45-1 電話03-3981-1111（代表）

主催 一般社団法人 東友会（東京都文京区湯島2-4-4）

豊島区

後援 東京都、広島市、長崎市 **協賛** 東京都生活協同組合連合会、東京都地域婦人団体連盟

問い合わせ先

一般社団法人 東友会 電話03-5842-5655 Eメール：t-hibaku@gaea.ocn.ne.jp

交通案内 — 最寄駅

- ・東京メトロ有楽町線「東池袋」駅から地下通路直結
- ・JR山手線ほか「池袋」駅東口から東南約570メートル
- ・都電荒川線「都電雑司ヶ谷」「東池袋四丁目」

「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会 15周年のつどい

「戦争はもうゴメン!東京に「平和祈念館」を!

とき 12月4日(金) 開会 6時30分
 ところ 豊島区生活産業プラザ 7階会議室
 豊島区民センターの後ろ
 池袋駅東口より徒歩約8分
 電話03-5992-7011

◇第1部 講演
 「戦後70年目の歴史認識と
 アジアの平和」
 大日方純夫さん

◇第2部 平和祈念館建設をめざして
 「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会総会
 資料代 800円
 (大学生500円、高校生以下無料)

●どなたでも参加できます

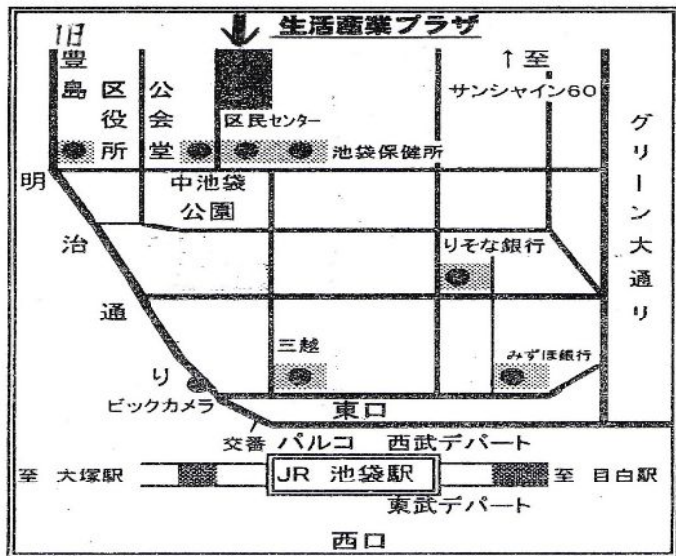


大日方純夫さん

●1950年生まれ。早稲田大学教授(文学部)。専門は日本近代史。2002年(来日中韓の共同の歴史書づくりに参加)。「現代日本(共編著、大月書店)、上・下(大月書店)」「日本近代史(共著、新日本出版社)」「現代史(共著、大月書店)」「日本近代史(共著、大月書店)」など著書あり。

安倍政権によって強行採決された「戦争法」は来年3月に施行、同時に政府は南スーダンへの自衛隊派遣を強行しようとしています。自衛隊をアメリカのすすめる戦争に参加させ、人を殺し、殺される情勢が緊迫しています。しかし同時に「戦争法」廃案をかけたたたかってきた広範な国民は、いまさらに「戦争法」発動阻止、廃止に向けてさらに大きく運動を発展させようとしています。

今年「平和は、何もにもまさってすべての基礎をなす条件です。日本憲法が基本理念とする恒久平和は、私たちすべての願いであり、人類共通の目標です」とうたった「東京市民平和アピール」が採択・発表されてから10年目にあたります。私たちはこの趣旨にたつて国際都市東京に「平和祈念館(仮称)」を建設させるべく運動を継続させてきました。70年前の3月10日未明、300余機の米軍B29爆撃機が東京下町地域を襲い大量の焼夷弾で攻撃し、たった2時間半に100万人が焼け出され、10万人の命を奪うという被害をもたらしました。こうした戦争を繰り返さずにはならないの思いを「平和祈念館(仮称)」建設に託していきたいと思えます。そのため集会です。ぜひご参加ください。



主催 「東京都平和祈念館 (仮称)」建設をすすめる会

お問合せ: FAX 03-5927-1487 東京平和委員会 メール keima@poem.ocn.ne.jp